リスキリング

JavaScript 第2回(全3回)/全7回

DOM(Document Object Model)

- HTML などの文書情報を表したモデル。
- モデルで表現されている文書の情報を取得、操作する枠組み

BOM(Browser Object Model)

- ブラウザの情報に関するオブジェクトモデル
- ブラウザの情報を取得、操作する枠組み

やってみよう!(DOM)

やってみよう!(BOM)

イベント1

- あるイベントが発生したときに、 JavaScript プログラムを起動させることが出来る。
- これをイベントの登録などと表現し、プログラムが起動することを発火などと表現する。

イベント2

HTML と JavaScript ファイルは、別ファイルに分けておきたい。

```
function buttonClick(){
   alert('Click');
}
let button = document.getElementById('myid2');
button.addEventListener('click', butotnClick);
```

ネットワークから情報を取得する1

https://open-meteo.com/ を使用して、天気情報を取得してみましょう。

まずはブラウザで以下にアクセスしてみてください。

https://api.open-meteo.com/v1/forecast?

latitude=35.6785&longitude=139.6823&hourly=temperature_2m&timezone=Asia%2FTo kyo

文字列がいろいろ表示されると思います。この中には、東京の一週間分の気温の情報が含まれています。

これらの文字列は JSON(JavaScript Object Notation)形式 と呼ばれ、 JavaScript ではよく使われます。

次のページで、 JavaScript でこの情報を取得してみましょう。

ネットワークから情報を取得する2

```
const url = 'https://api.open-meteo.com/v1/forecast?latitude=35.6785&longitude=139.6823&hourly=temperature_2m&timezone=Asia%2FTokyo';

fetch(url)
   .then(data => data.json())
   .then(json => console.log(json))
```

これで、 JSON 形式の情報がコンソールに表示されます。

ファイルへの保存

```
<a href="#" id="weather" download="weather.json">JSON ダウンロード</a>
```

```
document.getElementById('weather').addEventListener('click', (event) => {
    // JSON を文字列に治す。
    const json = JSON.stringify({ a: 1, b: 2, c: 3 }, null, ' ');
    // 保存する文字列の Blob オブジェクトを作成
    const blob = new Blob([json], { type: 'application/json' });
    // a 要素の href 属性に Object URL を セット
    event.currentTarget.href = window.URL.createObjectURL(blob);
});
```

ファイルの読み込み

今書き込んだ JSON フィアルを読み出してみましょう。 ファイルの読み書きには通常 File API を使用します。

```
<input id="myfile" type="file">
const f = document.getElementById('myfile');
f.addEventListener('change', evt => {
    const input = evt.target;
    const file = input.files[0];
    const reader = new FileReader();
    reader.onload = () => {
       // 読み出し結果の表示
        console.log(reader.result);
    };
    reader.readAsText(file); // 読み込み開始
});
```

10

テキストファイル (CSV) のI/O

演習

- ネットワークから CSV ファイルを取得しましょう。
- 取得した CSV ファイルの情報をもとに、 HTML を生成して、画面に表示してみましょう。